

1 主題

主体的に学ぶ東桜っ子の育成
 —「これに決めた！」と自己選択して学習する児童を目指して—

2 研究のねらい

本校は、昨年度より、「主体的に学ぶ東桜っ子の育成」をテーマにして研究を進めてきた。ここで目指す児童の姿は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い（続けて、何度も、最後まで）取組を行おうとしている姿や、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする（学んだことを生かして～する）姿である。また、学習のPDC Aサイクルを学習者自身が回す姿とも考えられる。そのため、学習の中に、「児童が自ら課題を設定する場面（P）」「自らの学習の進め方を試行錯誤する場面（D）」「児童が自らの学習状況を把握する場面（C、A）」を意図的に設けていく必要があると考えた。

そこで、昨年度は特に、算数科の学習を中心に、「前時の振り返りを生かし、子ども自らが行う本時の課題設定」と「授業終末の振り返り活動の充実」（※「学習のPDC Aサイクル」の中の「P、C、A」）を意識して授業研究を行った。それにより、自らが本時にできた、分かったことを具体的に振り返り、自分の状況を自分自身で把握するとともに、自己省察する姿が見られるようになった。一方で、本時の学習を次時以降の学習につなげたり、学んだことを生活に生かそうとしたりすることに課題が残った。これは、学習の中で自らの学習方法について計画したり選択したりする場面が少なく、自らの学習の自己調整ができなかったためだと考える。

そこで本年度は、学習の中で「自己選択をする場面の設定」を意識して授業研究を行っていく。自らの興味関心や学習進度に応じて選択することで、子ども一人一人の思いや願いを尊重し、自分に合ったペースや方法で学ぶことができると考える。また、昨年度までの研究の成果である「振り返り活動の充実」を継続して行うことで、自らの学び方について振り返り、次時以降の学習につなげていくことができると考える。以上のことにより、粘り強く学習に取り組んだり、自らの学習を調整しようとしたりして、主体的に学ぶことができる東桜っ子を育成したい。

3 研究の内容

(1) 実践を進めるにあたっての教師の姿勢

研究の基盤となる「学習のPDC Aサイクル」（★重点「D、C、A」）を通して、児童の主体的に取り組む態度を育て、考える楽しさ、分かる喜びを感じさせたいと考える。

- PDC Aサイクルを意識した授業改善
 - ・ 「児童が自ら課題を設定する場面（P）」（主に導入場面）では、児童自らが、これまでの学習を振り返り、何を課題として取り組んでいくのかを考えるための支援を行う。
 - ★ 「自ら学習の進め方を試行錯誤する場面（D）」（主に「展開場面」）では、自己選択して学習に取り組む場面を設定することで、自分に合ったペースや方法で学ぶことができるようにする。
 - ★ 「児童が自らの学習状況を把握する場面（C、A）」（主に「授業終末の振り返り活動」）では、児童に学習の過程を振り返らせ、内面の変化を表出させていく。そこでは、分かった（できた）ことだけではなく、『学んだことを学習や生活に生かそうとしているか』にも重点をおいて取り組んでいく。
- ※ 振り返り活動は、いつでもすぐに自らの学習の成果や課題を見返すことができるように紙で行い、綴っていくようにする。

<主体的に学ぶ東桜っ子を育成していくための手だて>

- ・ 自己選択をして学習に取り組む場面の工夫
- ・ 次時につながる振り返り活動の工夫

(2) 具体的な実践の進め方

ア 1学級1授業実践

【位置付け】

主体的に学ぶ児童の育成を目指して、1学級1授業実践を行い、その成果と課題を次の実践につないでいく。単発の学習ではなく、単元構想を練った学習の1授業を公開する。(公開する授業は、単元のどの場面でもよい。)担任は主要教科(国語科、算数科、社会科、理科、生活科)、専科指導教員は担当教科で実践を行う。教科は、年度初めに学年で相談して進め、実践の検証ができるようにする。

【前期・後期実践について】

学年で前期(5～9月中旬)と後期(10月～1月末)に分かれて実践を行う。

【事前・事後検討会について】

事前検討会は、部会が責任をもって行う。あらかじめ、検討の観点を授業者が提示して、30分を目安に会を行う。また、同学年の他学級で、努力点の指導案を使った授業を行い、手立ての有効性や授業の流れについて検討を行うことが望ましい。

事後検討会は、原則、授業実践を行った日の午後に行うこととする。事前検討会で取り上げた観点のみの検討とし、30分を目安に会を行う。なお、該当学年以外の人、自由に検討会に参加して良いこととする。

【指導案について】

略案形式とし、事前検討会時に検討する。その後、他学級での授業実践(模擬)を踏まえて学年で検討し、完成させる。前日には、資料を添えて机上に配布することとする。

【スケジュール管理について】

2週間前までを目途に、事前検討会、事前授業日(他学級での実践)、実践の実施希望日を決め、推進委員長に報告する。その後、推進委員長と教務主任で日程を調整し、授業者に伝える。授業者は、決定日時を職員室内のホワイトボードに記入したり、掲示板に書き込んだりして全体に周知する。

【授業の観察について】

授業実践者の部会は必ず観察することとする。同学年は写真撮影を行う。(授業者は、事後の報告を念頭に、あらかじめ記録してほしい場面を伝えておくとよい。)それ以外の観察者については、自由に参加して良いものとする。

イ 全体授業

【実践者】

- ・ 2学期に、全校で1人代表者が行う。

【授業づくり】

- ・ 授業者の所属する部会において、授業づくりを行う。(推進委員長・推進委員も参加する)
- ・ 指導案は、略案形式とする。

【事前・事後検討会】

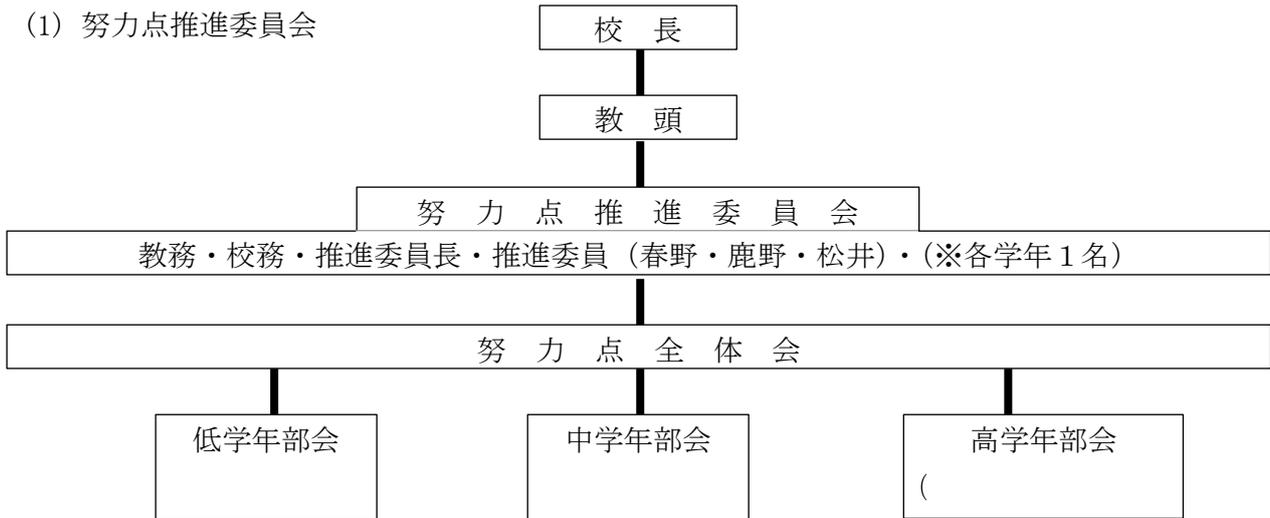
- ・ とともに全体で行う。
事前では、指導案をもとに、検討の観点を授業者が示し、検討を行う。
事後では、検討観点を絞り、児童の変容をもとに、手立ての有効性の検証を行う。

ウ 保護者への周知

授業実践での取組の様子を、写真を効果的に活用して周知できるようにする。

4 推進組織

(1) 努力点推進委員会



- ・ 教務主任・校務主任・推進委員長・低中高学年で選出された推進委員を運営推進メンバーとし、研究主題・推進計画・運営方針の立案、決定を行う。
- ・ 必要に応じて、運営推進メンバーと各学年1名で組織する推進委員会で協議する。
- ・ 推進委員は、推進委員会で決定内容を部会に伝え、部会の状況を推進委員会で発表する。
- ・ 推進委員で、協力して研究収録を作成する。

(2) 部会

- ・ 推進委員を中心に、実践時期の計画を立てる。
- ・ 指導案について話し合い、検討する。
- ・ 指導案は、事前検討会実施時に、参加者に配布する。
- ・ 事前検討会終了後、各自、指摘を入れて授業者に還元する。
- ・ 授業者は、指摘を受けて最終案を作成し、前日には全員に指導案を配布する。

(3) 全体会

- ・ 全体での意思統一を図る。
 - ・ 代表授業の事前・事後検討会を行う。
 - ・ 実践のまとめを行う。
 - ・ 研究集録は、各学年で担当箇所を作成→決裁→印刷を行った上で、推進委員に提出する。
- ※ 決裁の順序は、学年→部会の推進委員→推進委員長→校務→教務→教頭→校長

5 年間計画

令和5年度 学校努力点年間スケジュール		
会の名称と日にち		内容
4月5日(水)	・努力点推進委員会	・今年度の研究テーマについて
4月11日(火)	・努力点全体会	・今年度の研究テーマについて
4月13日(木)	・努力点部会協議	・部会ごとに計画立案、手だての検討
9月21日(木)までに中間報告書を提出		
9月28日(木)	・努力点全体会	・中間報告会(前期実践の報告)
11月16日(木)	・代表授業事前検討会	・代表授業の検討
11月22日(水)	・代表授業・代表授業事後検討会	・授業参観 ・事後検討
2月16日(金)までに最終報告書を提出		
2月26日(月)	・努力点全体会	・最終報告会(後期実践の報告)
3月21日(木)	・努力点推進委員会	・来年度に向けて